



紀傳小笈  
全

14  
3157  
22





序

田舎のり悟業の各ねを撰<sup>り</sup>集<sup>め</sup>  
 小答と題するものこの一冊は  
 人のあつてはなつたあつてこ  
 りしつゝのあつたあつたあつた  
 をよし海よりのあつたあつた  
 室よ書林壇を行つてあつた  
 ちよ新のあつたあつたあつた  
 びよあつたあつたあつたあつた











▲右三日ニ存すカヲ  
冬トス

▲此等ノ余等  
トシテ此等ノ字  
アレハ此ノ字トス  
是等ノ字ハ侍ナリ  
余ハ是ニシテハ  
心笑 心はる

▲用ルテアレハ又ナリ  
テ此ハ好メス長閑  
ト云テスムコトナリ  
ト云テスムコトナリ  
ト云テスムコトナリ

▲此等ニテハ  
ノ語ノ名ヲ流ル  
ト云テスムコトナリ  
可クニナリニナリ  
スニナリニナリ  
任保娘 子ナリ  
條ナリナリ

いねつら

▲此等ニテハ  
ノ語ノ名ヲ流ル  
ト云テスムコトナリ  
可クニナリニナリ  
スニナリニナリ

▲此等ニテハ  
ノ語ノ名ヲ流ル  
ト云テスムコトナリ  
可クニナリニナリ  
スニナリニナリ

▲此等ニテハ  
ノ語ノ名ヲ流ル  
ト云テスムコトナリ  
可クニナリニナリ  
スニナリニナリ

▲此等ニテハ  
ノ語ノ名ヲ流ル  
ト云テスムコトナリ  
可クニナリニナリ  
スニナリニナリ

子ハ何トシテハ  
ノ語ノ名ヲ流ル  
ト云テスムコトナリ  
可クニナリニナリ  
スニナリニナリ

▲此等ニテハ  
ノ語ノ名ヲ流ル  
ト云テスムコトナリ  
可クニナリニナリ  
スニナリニナリ

▲此等ニテハ  
ノ語ノ名ヲ流ル  
ト云テスムコトナリ  
可クニナリニナリ  
スニナリニナリ

▲此等ニテハ  
ノ語ノ名ヲ流ル  
ト云テスムコトナリ  
可クニナリニナリ  
スニナリニナリ

▲此等ニテハ  
ノ語ノ名ヲ流ル  
ト云テスムコトナリ  
可クニナリニナリ  
スニナリニナリ

▲此等ニテハ  
ノ語ノ名ヲ流ル  
ト云テスムコトナリ  
可クニナリニナリ  
スニナリニナリ

▲此等ニテハ  
ノ語ノ名ヲ流ル  
ト云テスムコトナリ  
可クニナリニナリ  
スニナリニナリ

▲此等ニテハ  
ノ語ノ名ヲ流ル  
ト云テスムコトナリ  
可クニナリニナリ  
スニナリニナリ

万葉集 巻之五

春初 猿川 初芝花

子の世 遊 小松川

賊 年 棚 方 柳 門 鏡 門 松

かきり 縄 とうきり 葉 大 餅 餅 花 福 世 末

かきり 縄 とうきり 葉 大 餅 餅 花 福 世 末

かきり 縄 とうきり 葉 大 餅 餅 花 福 世 末

かきり 縄 とうきり 葉 大 餅 餅 花 福 世 末

かきり 縄 とうきり 葉 大 餅 餅 花 福 世 末

かきり 縄 とうきり 葉 大 餅 餅 花 福 世 末

かきり 縄 とうきり 葉 大 餅 餅 花 福 世 末



封え名の三香邪三ヲ  
除し

庭の電 氏連ノ白土  
ヲ必存トスルヲし

田宅 小の系ト云ク  
鯛

梅屋 林の系ト云ク  
小クオチタルナリ

本代行やち 表ハ  
陰ノヲ以テ陰ノヲ以テ

齒周 穀ヲカケル  
美餅(を)洗モチハ  
九ク歯固ハハ比サニ

テ石キ

大福 小の系ト云ク  
大後小後ト云クヨリ後

元日 大福ノ系ト云ク  
内トナヒルモノナリ

世云

為田 新ノ系ト云ク

意漢教ノ系ト云ク

胡麻ノ系ト云ク

威美ヲ止テ修付ノ

子ト云ク

味多新

五形 倍ニ云ク

古式ニ云ク

産の推 辨し

錐儀ヲ出ト云ク

カ

ウ印はえ 彼下ノ口名  
クノ竹 初名

●牛代行の家

●食止齒固後餅居換白敷 多うやく

大福福系 加付鯛ヤク鯛 多うやく

幸標青 押鮎雜煮 餅 羊乃 大根 菜

左名 下ノ餅 福多 一 餅 食 二 餅

七種 下ノ餅 福多 一 餅 食 二 餅

善強 小豆強 下ノ餅 餅 食 二 餅

肥お火 餅 食 二 餅

●干餅●干人根●干豆●干後皮 干皮

●福多 干人根 干豆 干後皮 干皮

●干餅 干人根 干豆 干後皮 干皮

●干餅 干人根 干豆 干後皮 干皮

●干餅 干人根 干豆 干後皮 干皮

●干餅 干人根 干豆 干後皮 干皮

●干餅 干人根 干豆 干後皮 干皮

●干餅 干人根 干豆 干後皮 干皮

●干餅 干人根 干豆 干後皮 干皮

●干餅 干人根 干豆 干後皮 干皮

●干餅 干人根 干豆 干後皮 干皮

●干餅 干人根 干豆 干後皮 干皮

●干餅 干人根 干豆 干後皮 干皮

●干餅 干人根 干豆 干後皮 干皮











秋トナリナリ

このころは 冬より  
キ内ノ名は又布か  
アライツレニヤ

ふたつ ころニ生か  
ハ法はニ加へ花少ク  
昔白シモモ法アリ  
イツレニヤ

運種 五式ニテ  
今式は名ノ比トス

長草 師伝  
苗ノ根ナルヨリ根  
ニ定メテト地ニ  
根ヲトハスノ根立  
才ノ草ヲ見シハ  
根トノ草ヲトササハ  
條ノ自ニオスニカ  
立根ニハスヘシトク

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

ノ草ハニテ  
ノ草ニテ  
トトナスヘシ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

秋ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ

冬ノ草 凡テを  
トテノ草ニテ











ありては 女中カアリ  
女ヲ 袴 袴ト云  
男ヲ 袴 袴ト云  
鹿 鹿 サイタツ  
好ノ名トソ

七五五五 中流  
新ニテ 茶 茶ト云  
新ニテ 茶 茶ト云  
ト云テ 茶 茶ト云

自とナラニトソ  
むいぢやむいぢ  
波のむいぢ  
自とナラニトソ  
波のむいぢ  
自とナラニトソ

ありては 鹿 鹿ト云  
ありては 鹿 鹿ト云  
ありては 鹿 鹿ト云  
ありては 鹿 鹿ト云  
ありては 鹿 鹿ト云

本 鹿 鹿ト云  
鹿 鹿ト云  
鹿 鹿ト云  
鹿 鹿ト云  
鹿 鹿ト云

ありては 鹿 鹿ト云  
ありては 鹿 鹿ト云  
ありては 鹿 鹿ト云  
ありては 鹿 鹿ト云  
ありては 鹿 鹿ト云























































































能登 古武八秋ナレ  
△氏公武八秋ナレ  
至り旬々ノ所衣  
ヲナリ 天子南  
及ニ出滞アリ水  
魚ヲ効フ  
煖燒金 茶時記ニ  
十月卯有司煖  
如炭ヲ進食向  
皆ニ至ル獲如  
舎ヲナストアリ  
本朝ニ至モニ寄  
炭ヲセシル  
諸室系ノ事 公々  
ナラ他ラレノ所  
ヲ効フ

家 □家邦運ル邦族邦心之  
邦心屬るを事家トクも  
江心金 十あ 十あ  
芭蕉心 十あ 十あ  
今下海 十あ 十あ  
精文排ル 十あ 十あ

一陽来復 冬ニ至リ  
日初テ長キ一線  
十一月六日雷後ノ卦  
一陽初テ下ニ至ル  
依テ一陽ノ事

六の記 花心  
五出ナレ長キ一線  
六出ナリヨツテ六  
おノミト云大和国ニ  
思ニテ一ノモトス  
馬車 旅人ノ所  
引キ又女子ノ所  
ニシテル者長キ一線  
ニハナレ  
松 冬ニ至ル所  
あニハクモノ本枝  
作ナトヲ掃ニテラ  
松心ヲ彼ニタレ  
ナリ

邦 二月 五月 十月 正月  
冬ニ至リ 一陽来復

天 冬 春 夏 秋

人 冬 春 夏 秋

馬車 旅人ノ所

引キ又女子ノ所

ニシテル者長キ一線

ニハナレ

松 冬ニ至ル所

あニハクモノ本枝

作ナトヲ掃ニテラ

松心ヲ彼ニタレ

ナリ















寛政六年寅年

紀州若山新通二丁目

朝井屋源吉

同 細工町

帯屋伊兵衛

京寺町二条下町

野田治兵衛

大阪心齋橋北久太郎町

塩屋忠兵衛

書林

俳諧の題

五冊

此書小題をこけりて一より今二までありて  
此書をこけりて後百白とありて  
涼備著

古今句鑑

四冊

友人及當時流りの句とありて  
あはれあり  
素外著

日拾遺

四冊

あはれありしむる句を  
流りの句とありて  
素外著

新五子稿

二冊

大抵 墨村 青菴 晴庵 素外  
五子の名をとりて  
五冊

標良七初集

此書 晴菴 月のおこりありて  
素外著 墨村の考 花七  
此七品をとりて小本二冊あり



才化坊後白集 二冊 享和元一世の佳句を採りて以て集

件六 雅文消息 一冊 本大東道に在る凡流の詩書を集めて編みしものにして其の佳句を採りて以て集

貞徳の御成る 二冊 北村季長著 女仙伝の傳として集りしは千の御成るの書と云ふに似たりといふ有るものなり

新書 二冊 北村季長著 四季物語の口説とて集りしは千の御成るの書と云ふに似たりといふ有るものなり

重考大全 二冊 北村季長著 芭蕉の句を合して集りしは千の御成るの書と云ふに似たりといふ有るものなり

為葉考 二冊 北村季長著 芭蕉の句を合して集りしは千の御成るの書と云ふに似たりといふ有るものなり

和書他種書目録 増訂忠孝清板

俳諧小法 一冊 四季門教の書 四季物語の書 四季物語の書 四季物語の書

同 未だり 全 加賀十代天皇 四季を正月より集りしは千の御成るの書と云ふに似たりといふ有るものなり

同 四季歌類 一冊 四季を四月より集りしは千の御成るの書と云ふに似たりといふ有るものなり

一



淡く教句集 廿四巻一冊の句と集 二冊

日 文集 徳園居士文集 皇朝文苑 和文と句集 三冊

同 あらうの題 養徳風集 皇朝文苑 皇朝文苑 皇朝文苑 全一冊

さういふ小くあるま 四季神分集 全一冊

同 さり火打 珠入集 全一冊

同 おゆゑ 三の切形集 全一冊

同 季案播扇 八千坊著 全一冊

同 松秘傳抄 雪舟集 全一冊

俳諧浪花風流 高河流りの川流 八千坊選 大雪斎冷松集 二冊

七世松尾翁教句集 雪中庵三筆を著 松尾翁の教句集 松尾翁の教句集 二冊

名類林抄 徳園居士文集 皇朝文苑 皇朝文苑 五冊

俳諧五元集 其角一代の教句を五改元の 時として蕉門の变化を示す 四冊

同 續五元集 五元集の續 子二階全ホを一冊 四冊



其角雜談集

宗鑑を始、法隆寺の僧三題、の注など、而して其の類、各を付合入

二冊

五木村の歌集

正時流の先歌、其の歌、各を付合入

二冊

二柳菴後集

正刻とて

二冊

俳編初心玄

此の初め、此の初め、  
句を正し、  
句を正し、

一冊

片歌及のり免

凍ゆ葉

一冊

同 二歌同巻、を正し、  
句を正し、

一冊

俳諧三部経

門流の御法、此、  
此、

五冊

俳諧分歌

四季の歌、此、  
此、

六冊

教句集

五七の句、此、  
此、

一冊

新花流

蘇村の歌、此、  
此、

一冊

桐火桶

定歌、此、  
此、

二冊

狂歌草分歌

園日、此、  
此、

一冊



伊勢書文名所考  
伊勢書文名所考 此を画するにして板六冊  
東京無名堂

繪本廿四孝  
此二十四の極難を以て初巻に  
系傳を以てしたるに其を以て由一冊  
極を以てし而ふく後巻を以て

茶搦けい  
茶搦のありきそのむねを以てし  
うゝ人も此書を以てし其がむね  
お上巻

分画石圖式  
法玉のえり百書を以てし其書  
の圖式 月次を以てし其の圖を以てし  
三冊

瓢水發句集 二冊  
此の書は春草一巻のむね  
とてし其の集

南北新話 二冊  
涼備法玉の初巻に  
宗道及後風草のむねを以てし其の集

俳諧深川集 酒堂選  
此は深川一巻のむねを以てし其の集  
佐竹のむねを以てし其の集

發句歌集 五冊  
黄卷巻著  
此は本字のむね及び清小のむねを以てし其の集  
流りのむねを以てし其の集  
そのむねを以てし其の集

俳諧新々式 半化坊著  
此は本字のむねを以てし其の集  
小本一冊  
此は本字のむねを以てし其の集

頓阿日發句  
えりむねのむねを以てし其の集  
むねを以てし其の集



芭蕉翁反古文

二冊 芭蕉翁の反古文の類を採りて初め  
目録後拾ふるものも一冊  
芭蕉翁の反古文の類を採りて初め  
目録後拾ふるものも一冊

俳諧十家類題

全五冊

芭蕉言水活徳其用嵐雲雪  
去来未山麦林蕪村石丁宗五家  
一世の句を採りて初め  
目録後拾ふるものも一冊

蕉文のそと道

一冊著  
二冊

蕉文のそと道の類を採りて初め  
目録後拾ふるものも一冊

やぶぢぢ

芭蕉のやぶぢぢの類を採りて初め  
目録後拾ふるものも一冊



